Konica HEXAR Silver

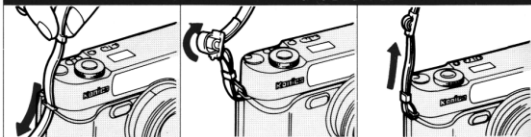
使用説明書

各部の名称 各操作部

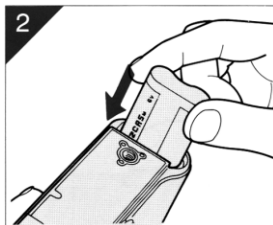
アクセサリーシュー
オートフォーカス窓
ファインダー採光窓
ファインダー窓
フォーカスインジケータ
ストラップ取付け部
Konica
KONICA HEXAR LENS
35mm F2.0 JAPAN
レンズ
レンズフード
測光窓
セルフタイマーランプ
グリップ

ファインダー接眼部
スプロケット
巻取りローラー
裏ぶた開放ノブ
フィルム感度検知ピン
電池室カバー
三脚ネジ穴
フィルム確認窓
裏ぶた
パトローネ室

操作系各部の名称

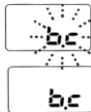
シャッターボタン
表示パネル
絞りダイアル
メインスイッチ
M:マニュアルモード
A:絞り優先モード
P:プログラムモード
OFF:ロック
アップボタン
ダウンボタン
SELFボタン
MFボタン
SELECTボタン
R(途中巻戻し)ボタン
フィルム位置表示
HEXAR
SELF
MF
SELECT
R
OFF
P
A
M
ストラップの取付け方

電池を入れてください

「電池を入れた時は、メインスッチを
いったんMに入れてください」

コイン等で電池室カバーを開けてください。

同梱のリチウム電池を入れてください。(2CR5:6V)

電池室カバーを押えながら、閉じてください。

電池交換時期について

メインスイッチを入れたとき、電圧が低下していると以下のように表示されます。

b.c そろそろ交換時期です。
＊ 約10秒間表示します。

b.c 電池はなくなりました。
交換してください。

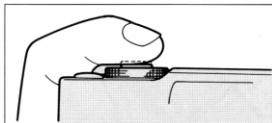
＊ 電池交換は、メインスイッチを切ってから行なってください。
＊ 表示パネルに－－－が表示され続けたときは、メインスイッチをいったんMに入れてください。
＊ 電池交換後は、手ぶれ限界速度、ISO感度等の設定値を再確認してください。

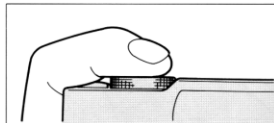
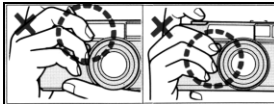
基本機能と操作方法

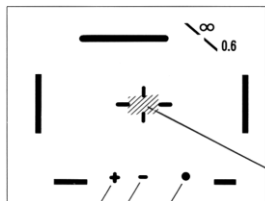
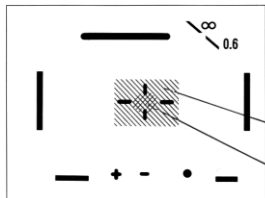
このカメラの基本的な機能と操作方法を説明します。

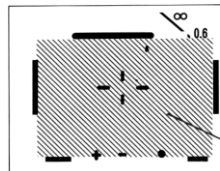
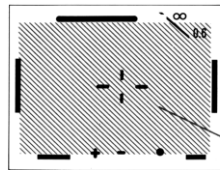
シャッターボタンの半押し操作について

カメラを上手にお使い頂くためには「半押し」の状態を維持することが大切です。フィルムを入れる前に半押しの状態を練習することをお勧めします。

●半押し

人差し指の腹(縦位置の場合は親指)を軽く押し当てた状態。ピントと露出、撮影範囲が決定し、ファインダー内、及び表示パネルに撮影情報が表示されます。

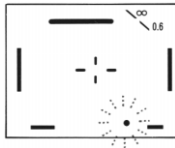
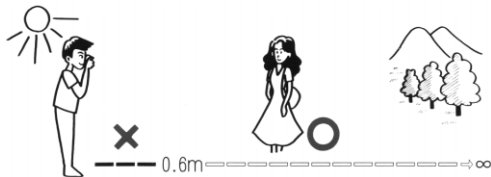
●全押し

そのまま静かに押し込んだ状態。シャッターが切れフィルムを巻き上げます。

カメラを構える際、カメラ前面の測光窓、オートフォーカス窓を指等で覆わないようにしてください。

測距・測光範囲とファインダー表示について

自動パララックス補正について

「コニカ・ヘキサー」は、ピントを合わせた被写体との距離に応じて、パララックス(視差)を修正します。

撮影範囲とピント合わせについて

ピント合わせは、赤外線を使ったオートフォーカス(AF)機構により、シャッターボタン半押しの時点でファインダー中央の被写体に対して設定されます。

＊ 被写体が画面の中央にない場合や、赤外線AFが苦手な被写体の撮影には、フォーカスロックや、ピント固定などの操作が必要です。

撮影可能距離(ピントが合う範囲)は0.6mから、無限遠までです。

シャッターボタン半押しの状態で緑ランプが点滅したら近付き過ぎの合図でシャッターロックが掛かります。少し離れて撮影しましょう。

＊ 極端に近付くとシャッターが切れますのでご注意ください。

赤外線AFが苦手な被写体

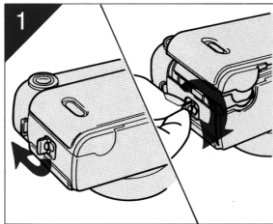
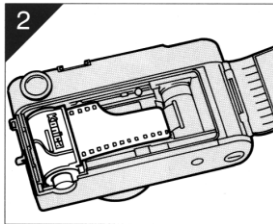
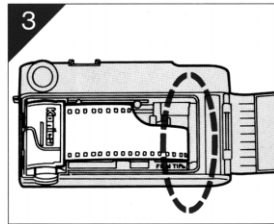
赤外線が吸収されやすい髪の毛などの黒い被写体、ロウソクなどの発光体。赤外線が反射しやすい鏡、車のボディーなどの光沢のあるもの。また、極端に小さいもの、細いものの撮影ではAFが正しく作動しないことがあります。
その際、等距離にあって同じ程度の明るさの測距しやすいものにむけてフォーカスロックしてください。

フォーカスロック撮影

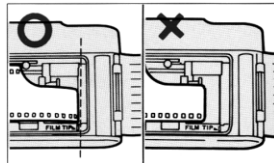
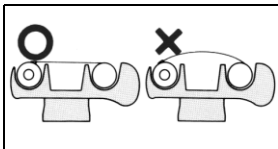
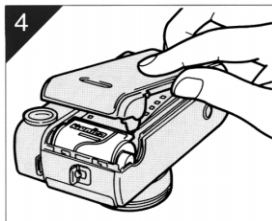
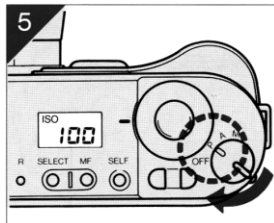
撮りたい構図。

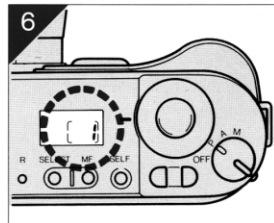
被写体に向けてシャッターボタンを半押しにしてください。
レンズが移動し、緑ランプが点灯して、ピント合わせが完了します。

半押しのままの状態で撮りたい構図に戻し、静かにシャッターを切ってください。

フィルムの入れ方

裏ぶたを開けてください。

フィルムをパトローネ室に入れてください。

フィルムの先端を少し引き出し、FILM TIP◣▮マークに合わせてください。

裏ぶたを閉じてください。

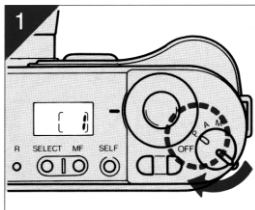
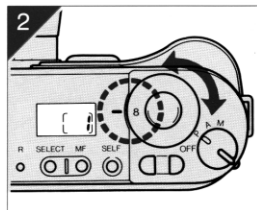
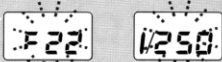
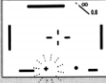
フィルム感度自動設定
DXコードの付いたISO25～5000までのフィルム感度は自動設定されます。 また、任意に設定することもできます。

メインスイッチを入れるとモーター音と共にフィルムが自動給送され、一瞬フィルム感度が表示されます。

＊ メインスイッチがすでに入っている場合は、シャッターボタンを押してください。

フィルムが正しく給送されると、撮影枚数〔１〕が表示されます。

＊ 撮影枚数が表示されないときには、SELECTボタンを押してください。

一般撮影

失敗のないように配慮されたモードです。
指定した絞り値を基準に、明るさに応じてシャッター速度が変化します。シャッター速度の変化だけで対応できないときは、絞りが変化し、露出を自動調節します。

P：プログラムモード

メインスイッチをPに合わせてください。

絞りダイヤルを回して、絞り値を設定してください。

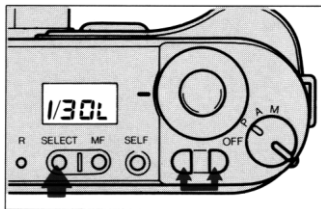
失敗しない絞りの設定例（ISO 100の場合）		
2　2.8　4	5.6　8	11　16　22
シャッター速度を速くしたいとき	一般的な設定値	ピントの合う範囲を広くしたいとき

＊絞り値を変えることでプログラムラインを変えることができます。

露出表示 シャッターボタンの半押し状態で確認することができます。

	表示パネル	ファインダー内
指定した絞り値で適正露出が得られます。	1/30 ～ 1/250 適正シャッター速度表示	
指定した絞り値では適正露出が得られず、適正絞りに自動的に設定されます。	F2.0 ～ F22 適正絞り表示	
露出アンダー警告	F2.0　1/30 F2またはシャッター速度点滅	
露出オーバー警告	F22　1/250 F22または1/250 点滅	

＊ シャッターボタンを全押しにすると実行シャッター速度が表示されます。

手ぶれ限界速度の設定方法

Ｐモードに合わせてください。
SELECTボタンを押し続けると、手ぶれ限界速度が表示されます。アップ・ダウンボタンを押して設定してください。

＊ 選択可能範囲は、1/4〜1/60秒です。低速に設定したときには、手ぶれに注意してください。
＊ 電池を交換すると、1/30秒に設定されます。

Ｐモードのプログラム線図

＊ISO 100絞りをＦ5.6にセットした場合 ———
＊ISO 100絞りをＦ11にセットした場合 - - - - -

EV: 10 11 12 13 14 15 16 / 9 8 7 6 5 4 3

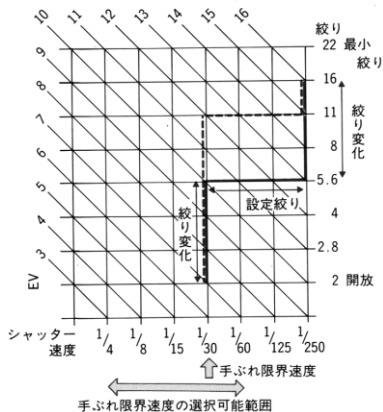
絞り: 22 最小絞り, 16, 11, 8, 5.6, 4, 2.8, 2 開放

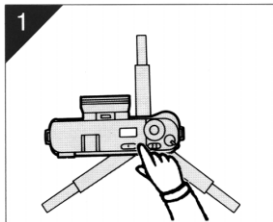
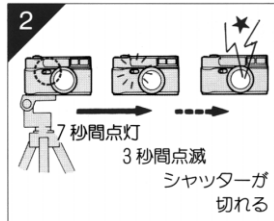
絞り変化

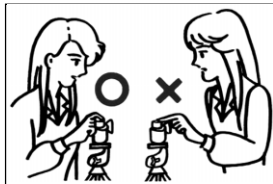
設定絞り

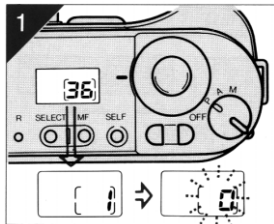
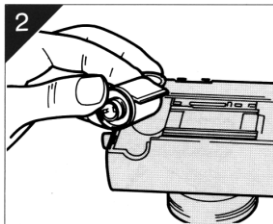
シャッター速度: 1/4 1/8 1/15 1/30 1/60 1/125 1/250

手ぶれ限界速度

手ぶれ限界速度の選択可能範囲

セルフタイマーモード

SELFボタンを押すと、約10秒後にシャッターが切れるモードです。撮影者を含めた撮影をしたいとき、三脚使用時のカメラぶれ防止等に便利です。

カメラをセットしてSELFボタンを押してください。

セルフタイマーランプが約７秒間点灯した後、点滅に変り、その約３秒後にシャッターが切れます。

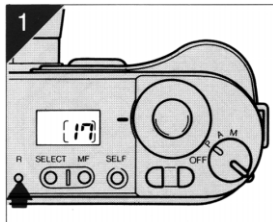
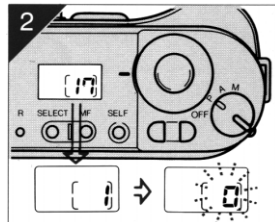
セルフタイマーのセットは必ずカメラ背後、または側面から行ってください。

＊ キャンセルは、メインスイッチを切ってください。
＊ ピントと露出はSELFボタンを押した時点で設定されます。

フィルムの巻戻しと取出し

フィルムを全部撮り終ると自動的に巻戻しが始まり、巻戻しが終了すると自動的に停止します。

裏ぶたを開けて、フィルムを取出してください。

フィルムの先端を残して巻戻しできます	
巻戻し完了直前の撮影枚数計に[　1]が点灯した後、[ーー]表示の状態で約１秒間停止します。このとき裏ぶたを開けると、フィルムの先端が残ります。	

撮影途中のフィルム巻戻し

撮影の途中でもフィルムを巻戻すことができます。

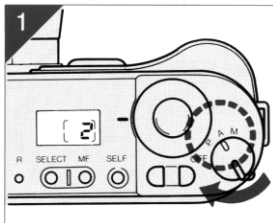
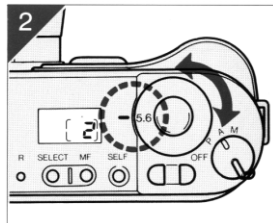
Rボタンを押してください。

* ストラップ金具の突起部を使うと便利です。

モーター音と共に巻戻しが始まります。

* 撮影済で、未現像のフィルムは化学的に不安定な状態です。
撮り終ったフィルムはできるだけ早く現像に出すことをお勧めします。

絞り優先撮影

指定した絞り値に合わせてシャッター速度が変化するモードです。
絞り値を一定に保てますので、被写界深度を考慮した撮影などに便利です。

＊ 被写界深度
＊ シャッター速度が最高速度の1/250秒を越えたり、最低速の30秒より遅くなると、ファインダー内に右表の警告がでます。

A：絞り優先モード

メインスイッチをＡに合わせてください。

絞りダイアルを回して、絞り値を指定してください。

露出表示 シャッターボタン半押しで確認できます。

	表示パネル	ファインダー内
適正露出	適正シャッター速度表示	
露出アンダー警告	シャッター速度点滅	−点滅
露出オーバー警告	1/250 点滅	＋点滅

＊ 手ぶれ限界速度より遅くなると、−がゆっくり点滅します。
この場合は、三脚の使用をお勧めします。

被写界深度について

ある一点にピントを合わせるとその前後に「ピントの合う範囲」があります。これを被写界深度と言います。
被写界深度には以下の特徴があります。

① 絞りを小絞りにすればするほど被写界深度は深くなり、逆に開放に近付くにしたがって浅くなります。
② 被写体との距離が遠くになればなるほど被写界深度は深くなり、逆に近付けば近付くほど浅くなります。

被写界深度を利用した作例

深度が浅い

F2　1/250
(絞り開放)

深度が深い

F22　1/2
(最小絞り)

＊ 絞りを変えることで、撮影効果が変わります。

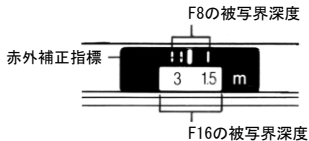
被写界深度の確認

フォーカスインジケータ上で、大まかな被写界深度を確認できます。

F8の被写界深度

赤外補正指標

3 1.5 m

F16の被写界深度

被写界深度は、被写体との距離と絞りの大きさによって決まります。

Aモードの AE連動範囲

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

3 2 1 0 −1 −2 −3 EV

絞り

22 最小絞り

16

11

8

5.6

4

2.8

2 開放

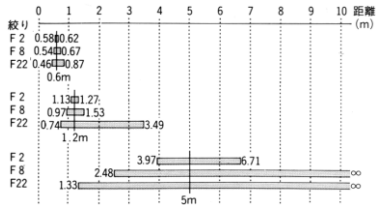
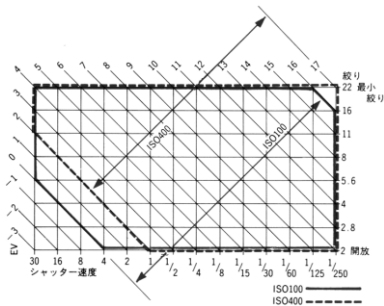
ISO400

ISO100

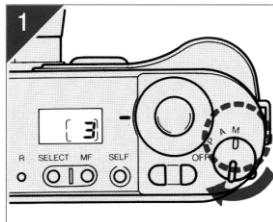
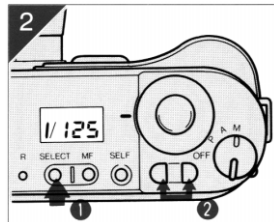
30 16 8 4 2 1 1/2 1/4 1/8 1/15 1/30 1/60 1/125 1/250

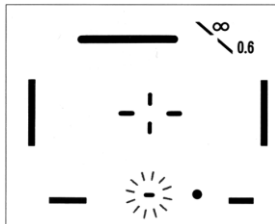
シャッター速度

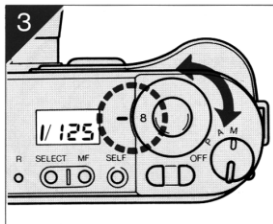
ISO100

ISO400

マニュアル撮影

シャッター速度と絞りの組み合わせを、任意に設定できるモードです。

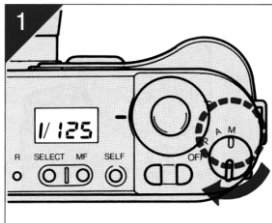
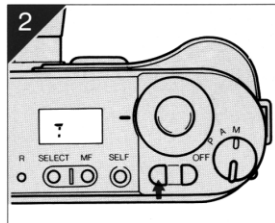
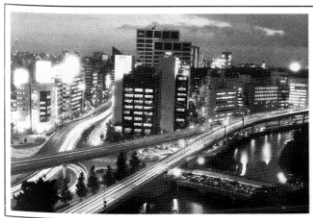
M：マニュアルモード

メインスイッチをMに合わせてください。

SELECTボタンを押してください。シャッター速度が表示されます。アップ・ダウンボタンを押してシャッター速度を設定してください。

スポット測光で、適正露出が確認できます。

シャッターボタンを半押しにすると、約10秒間、ファインダー内に露出警告マークが点灯します。

* SELECTボタンを押すと撮影枚数が表示されます。
* 設定したシャッター速度は、アップ・ダウンボタンを押さない限り記憶されています。

絞りダイアルを回して、ファインダー内に＋－の表示が点灯した位置が適正露出の組合わせです。

* シャッターボタンを半押しにすると、適正シャッター速度が表示されます。
* このとき、測光範囲(EV3～18/ISO100)を超えると、表示パネルと露出警告の＋—表示が点滅します。

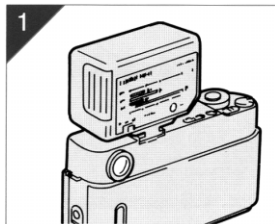
タイム露出

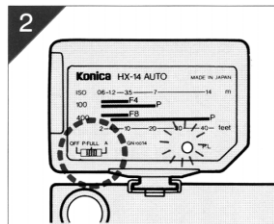
シャッター速度が30秒を越える、夜景撮影などの長時間露出に使用します。
シャッターボタンを押すとシャッターが開きっぱなしになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

メインスイッチをMにしてください。

ダウンボタンを押して、シャッター速度表示をTにしてください。

＊ シャッター速度が表示されていないときには、SELECTボタンを押してください。
＊ タイム露出中は、表示パネルにT－－が表示されます。

専用フラッシュ撮影

専用フラッシュを使えば、光量の不足しがちな日陰、室内、夜間の撮影が簡単にできます。
また、背景の明るさを活かしたフラッシュ撮影も簡単にできます。

＊ どのシャッター速度でも使用できます。

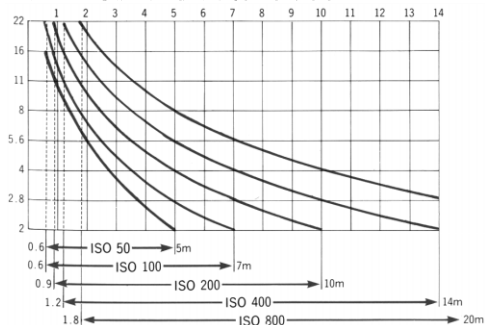
Pモード時のフラッシュ撮影

専用フラッシュをカメラに取付けてください。

Pモードでは、専用フラッシュ以外は発光しません。

フラッシュのスイッチをP・FULLに合わせてください。
充電が完了すると、表示パネルに[FL]が表示されます。
この状態で、フルオート(可変絞りシンクロフラッシュ撮影)が可能になります。

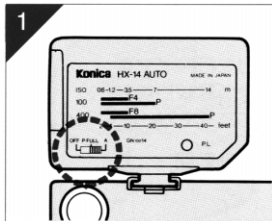
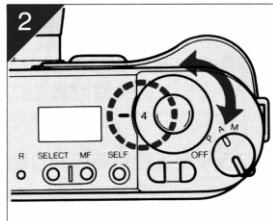
＊ フラッシュ未充電では[FL]が表示されず、フラッシュは発光しません。その場合、通常のプログラムAE撮影になります。

可変絞りシンクロについて

背景の明るさに応じた絞りで露出を行なった後、フラッシュの光量が適正になるような絞りに変化させて、フラッシュを発光させる方式です。

フラッシュ使用時の絞り制御と有効範囲

* 暗いところでは手ぶれに注意してください。
* 背景が明るすぎると、フラッシュ光が不足することがあります。
* フラッシュ撮影で適正露出が得られないときは、露出警告マークが点滅します。

A. Mモード時の自動調光フラッシュ撮影

フラッシュのスイッチをＡで使用すると、自動調光フラッシュとして使用できます。

専用フラッシュをカメラに取付け、フラッシュのスイッチをＡに合せてください。

使用するフィルム感度に合わせて、下表の絞り値を設定してください。

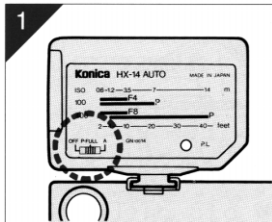
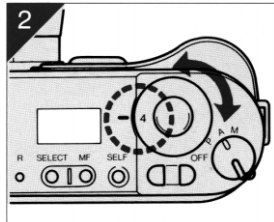
暗いところでＡモードを使用すると、手ぶれを起こしやすいので、三脚を使用してください。

自動調光フラッシュ使用時の絞り設定値				
フィルム感度	ISO 50	ISO 100	ISO 200	ISO 400
指定絞り値	F2.8	F4	F5.6	F8

＊ フラッシュの有効範囲は、どの感度でも0.6～3.5mです。

＊ 一般のホットシュー付自動調光フラッシュも使用できます。
その場合、使用するフラッシュのガイドナンバーに合わせて、絞り値を設定してください。

A･Mモード時のマニュアルフラッシュ撮影

フラッシュのスイッチをP・FULLで使用します。
被写体との距離に応じて絞りの調節が必要です。

専用フラッシュをカメラに取付け、フラッシュのスイッチをP・FULLに合わせてください。

次に、下表の公式に従い適正絞り値を求め、絞りダイアルを設定してください。

＊ 一般のホットシュー付フラッシュも使用できます。
使用するフラッシュのガイドナンバー、撮影距離に応じた絞りの調節が必要です。

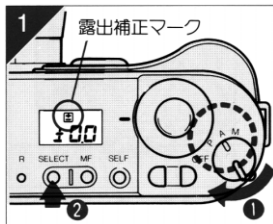
適正絞り値を求める公式

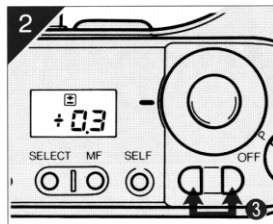
$$適正絞り値＝\frac{14(GN/ISO\ 100)}{撮影距離(m)}$$

より高度な使い方

このカメラは、露出補正、ピント固定モードなど、様々な特長を持っています。
上手に使いこなして、このカメラならではの写真をお撮りください。

露出補正

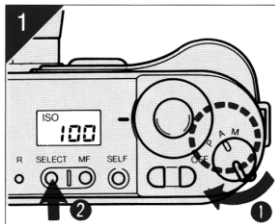
露出を1/3EVステップで、±2EVまで補正できます。

メインスイッチをＰまたはＡモードに合わせ、SELECTボタンを押してください。表示パネルに、露出補正表示が出ます。

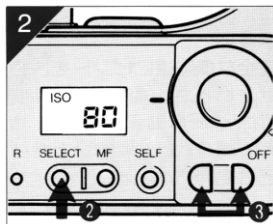
メインスイッチを切るとキャンセルされます。

アップ・ダウンボタンで補正値を設定してください。

＊ アップ・ダウンボタンを押したとき、ファインダー内に一瞬、＋ーランプが点灯し、補正状態を確認できます。
＊ もう一度SELECTボタンを押すと、撮影枚数表示に戻ります。
＊ 露出補正中は露出補正マークが表示され続けます。

フィルム感度のマニュアル設定方法

フィルム感度の設定を任意に変えることができます。
露出補正でカバーできない大幅な露出の変更をしたい時などにも使用できます。

＊ P・Aモードでは設定感度に合わせて露出制御しますが、Mモードでは表示のみ行ないます。

Ａモードに合わせて、SELECTボタンを押し続けてください。
ISO感度が表示されます。

＊ 設定できる範囲は、ISO6〜6400までです。
＊ DXフィルムで、感度をマニュアル設定した場合には、そのフィルムのみ有効です。
＊ ISO1000以上の感度表示は下２桁をＨで省略します。
例：ISO3200→ISO32H

そのままの状態で、アップ・ダウンボタンを押し、感度設定をしてください。

＊ ノンDXフィルムまたは、フィルムを入れていないときに設定した感度は、そのまま記憶され続けますが、DXフィルムを使用するとDX感度が優先されます。
＊ 再度ノンDXフィルムを使用すると、記憶された感度になります。

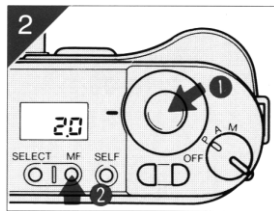
ピント固定モード（3種類あります）

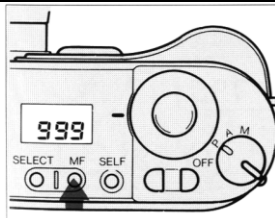
ピント位置を任意に設定できます。
完全な無限遠にピントを合わせたいとき、AFが苦手な被写体、AF作動音をなくし、測距時間をかけたくないときなどに便利です。

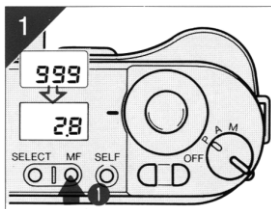
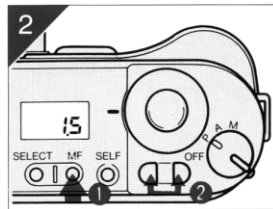
＊ 設定した距離は、フォーカスインジケータで大まかに確認できます。
＊ MFボタンをわずかに押すと、表示パネルにAFが表示され、通常のオートフォーカスモードに戻ります。

メインスイッチを切るとキャンセルされます。

測距位置固定

被写体に向けて、シャッターボタンを半押しにしてください。

半押しの状態のままで、MFボタンを押してください。
測距位置にピントが固定されます。

無限遠固定

MFボタンを押すと、999が表示されます。
表示されている間に指を離すと∞(無限遠)にピントが固定されます。

マニュアルフォーカス

MFボタンを押し続けてください。
999から距離表示に替わります。

MFボタンを押しながらアップ・ダウンボタンを押して、距離を設定してください。
MFボタンから指を離すと、ピントが固定されます。

＊ 設定できる距離は、0.6～20.0mまでです。

自動赤外焦点補正モード

使用する赤外フィルムの波長に合わせて、自動的にピント位置を補正します。（１コマ毎にピント補正をする必要がなくなります。）

＊ このモードを使用するときは、必ず「Ｍモード」で赤外フィルムの使用説明書に従い絞り値、シャッター速度を決定した上で使用してください。

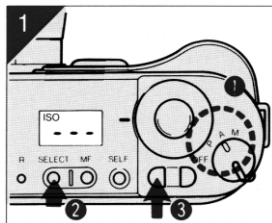
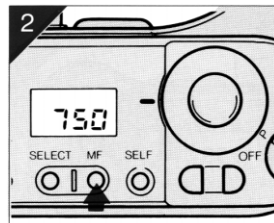
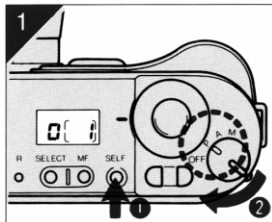
＊ このモードは、フィルムの巻き戻しが完了した時、または電池を抜くと、キャンセルされてしまいますので、続けてこのモードを使用する場合は、再度設定を行ってください。

赤外フィルムを装填し、シャッターボタンを押してオートロードさせ、表示パネルに[1]を表示します。メインスイッチをＡにして、SELECTボタンを押し続けISO感度の表示にします。
次にダウンボタンを押し続けて"ISO---"を表示させてください。

MFボタンを押すと"750"もう一度押すと"850"が表示されます。
"750"または"850"のどちらかを選択して指を離すと３秒後に"ISO100"が表示され、自動赤外焦点補正モードに設定されます。

表　示	フィルム
"750"	コニカ赤外750
"850"	コダックハイスピードインフラレッド

多重撮影モード

フィルムの巻き上げを行わず一枚の画面に任意の回数の多重露出を行なうことができます。

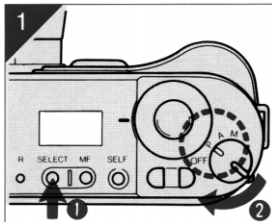
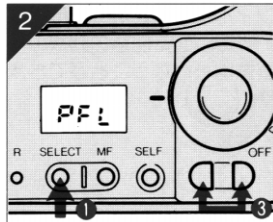
＊ メインスイッチをOFFするとフィルムを巻き上げこのモードはキャンセルされます。

フィルムを入れた状態で、SELFボタンを押しながらメインスイッチをOFFからＰにしてください。表示は、"0[N]"（Ｎは撮影枚数）となり、多重露出モードになります。以後シャッターを切ると一番左の数字が加算され、フィルムは巻き上げられません。

＊ 露光回数に制限はありませんが、表示は0～9までの回数です。

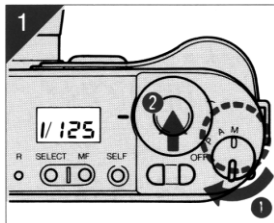
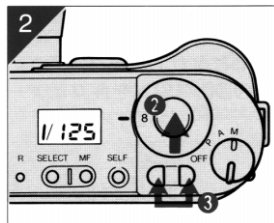
ガイドナンバーマニュアル設定モード

一般のホットシュー付フラッシュのガイドナンバーを、任意に設定できます。（Ｐモードでの専用フラッシュ同様、背景の明るさを活かした「フルオート可変絞りシンクロ撮影」ができます。）

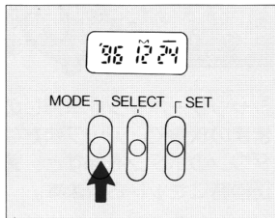
＊ メインスイッチをOFFにすると、このモードはキャンセルされますが、２回目以降の設定でも同じガイドナンバーにしたいときには、SELECTボタンを押しながらメインスイッチを入れてください。
同じガイドナンバーが表示されます。

SELECTボタンを押しながら、メインスイッチをOFFからＰにしてください。

＊ お手持ちのフラッシュのガイドナンバーが設定出来ない数値の場合、その数値より小さいガイドナンバーを設定してください。
例: ガイドナンバー24のフラッシュの場合、23に設定してください。

SELECTボタンをそのまま押しながら、アップ・ダウンボタンを押して、お手持ちのフラッシュのガイドナンバーを表示させてください。
"P(1.0～64)"設定が終了すると、表示は"PFL"となります。

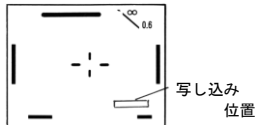
ワンタッチ適正露出設定モード

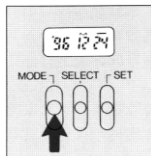
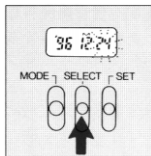
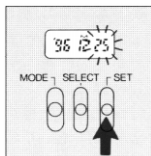
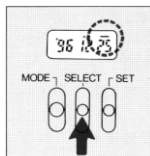
Mモードでの撮影時に設定した絞り値に対する適正シャッター速度に瞬時に設定するモードです。

メインスイッチをMにして絞り値を設定します。
シャッターボタンを半押しにすると表示パネルに適正秒時が表示されます。

シャッターボタンを半押しのままの状態で、アップまたはダウンのボタンを押すと、適正秒時にセットされます。

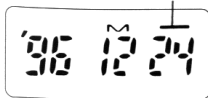
オートデート（オートデート機のみ）

オートデートとは、自動的に日付や時刻を写真の中に写し込むことができる機能です。
MODEボタンを押すとデートモードが切替わります。

MODEボタンを押すごとに、5つのモードが循環します。

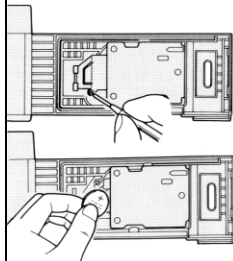
このカメラは、2019年12月31日までのカレンダー(閏年を含む)を記憶しています。

写し込みモードの変更方法

ファインダーをのぞいて、日付、時刻が写し込まれるおおよその位置です。
背景が白っぽいところでは、デート文字がはっきり出ないことがあります。また、デート文字は実際の大きさと異なります。

オートデートの修正(または日付・時刻の修正)

MODEボタンを押して、修正する年月日または時分をパネルに表示させてください。

SELECTボタンを押して、修正する年月日または時分を点滅させてください。

SETボタンを押して、年月日または時分を、点滅のまま修正してください。

SELECTボタンを押すと、点滅が点灯になります。
同様の方法で月日、時分を設定し、━マークが現れたら設定完了です。

秒単位の調整

分を修正した後、SELECTボタンを押すと、:が点滅します。もう一度SELECTボタンを押して、━マークを出し、写し込みの状態にしてください。
秒まで合わせるには、:が点滅している間に時報に合わせてSETボタンを押します。さらにSELECTボタンを押して、写し込みの状態にしてください。

オートデート用電池の交換

オートデート用には、リチウム電池CR2025:3Vを使用しています。およその交換時期は、約4年です。デートの文字が見えにくくなったら、新しい電池と交換してください。

＊ 電池交換後は、日付・時刻の調整をしてください。

主な仕様

形　　式	35mm　レンズシャッター式　画面サイズ：24×36mm
レ ン ズ	コニカヘキサーレンズ　35mm　F2(6群7枚)　最小絞り：F22　フィルター径φ46mm　レンズフード内蔵
焦点調節	赤外線アクティブ式自動焦点方式及びマニュアル設定
撮影距離	0、6m〜∞(撮影範囲外レリーズロック)
シャッター	ステッピングモーターによる電磁式シャッター　(T・30〜1/250秒)
フィルム感度	DXフィルム自動設定(ISO 25〜5000)　マニュアル設定(ISO 6〜6400)
測光範囲	SPD受光素子使用　中央重点測光約15度(EV 0〜16／ISO 100)　スポット測光約4度(EV 3〜18／ISO 100)
露出調節 (ISO 100)	メインスイッチ兼用の撮影モードスイッチで下記3モードを選択 P(プログラムAE)モード　EV 7〜16／手ぶれ限界速度1/30秒の場合 A(絞り優先AE)モード　EV 0〜16　M(マニュアル)モード　EV −3〜17／T露出を除く
ファインダー	逆ガリレオ式透視ファインダー　採光式ブライトフレーム　パララックス自動修正 ファインダー内：フォーカスロックランプ、測距表示及び露出警告表示
フィルム給送	内蔵モーターによる電動巻上げ　自動巻戻し　途中巻戻し可能
セルフタイマー	電子式　作動時間約10秒　途中解除可能
表示パネル	撮影枚数　シャッター速度　絞り　フィルム感度　露出補正　バッテリーチェック等表示
その他特徴	ピント固定機構　露出補正機構(±2EV 1/3ステップ)　多重撮影モード　自動赤外焦点補正モード ガイドナンバーマニュアル設定可能　ワンタッチ適正露出設定可能　手ぶれ限界速度マニュアル設定可能 電源OFFタイマー(約2時間)　専用フラッシュ使用時可変シンクロ撮影可能
オートデート	オートデート専用機のみ：液晶表示デジタルウォッチ内蔵　2019年までの年月日、時間を写し込み可能
撮影可能本数	約200本(24枚撮りフィルム)
電　　源	カメラ用　リチウム電池(2CR5：6V)　1コ　オートデート用　リチウム電池(CR2025：3V)　1コ
大きさ・重さ	デートなし：137.5×76.5×64.5 490g(電池別)　デート付：137.5×76.5×67.5 490g(電池別)

＊上記性能については当社試験条件によります。＊製品の仕様、外観は予告なく変更することがあります。
＊ソフトケースは別売です。販売店でご相談ください。